

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2023年 第45週（11月6日～11月12日）

## ★県内での感染症発生状況

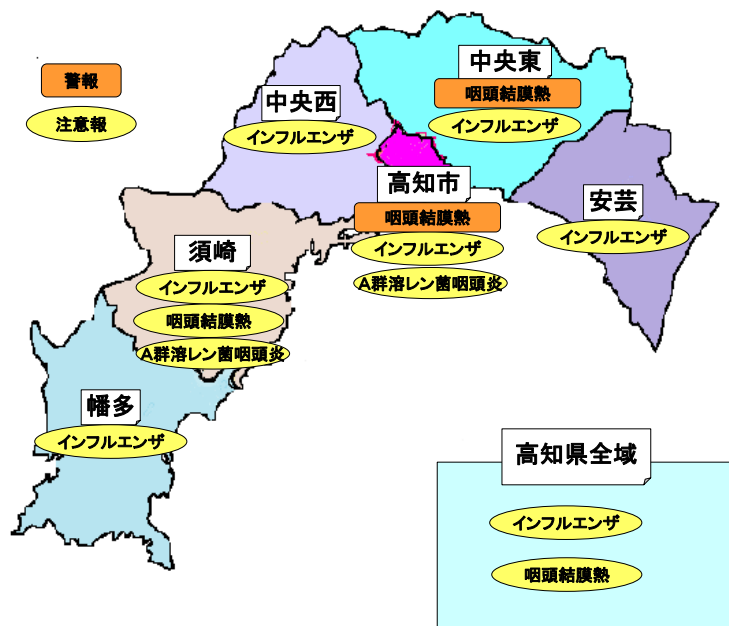
インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位5疾患）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	➡	22.27	幡多、高知市、中央東で減少していますが、安芸で急増、須崎で増加し、県全域、幡多、中央西、高知市、安芸、須崎、中央東では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	3.62	須崎、中央西、中央東で急増、県全域、高知市で増加し、須崎、高知市では注意報値を超えています。
咽頭結膜熱	➡	2.54	中央西で急減していますが、県全域、中央東、高知市で増加し、中央東、高知市では警報値を、県全域、須崎では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	➡	2.19	中央東で急増、県全域、安芸、須崎、高知市で増加しています。
新型コロナウイルス感染症	➡	1.73	高知市、安芸で急減していますが、中央東で急増、中央西で増加しています。

### <推移の基準>

急増	↑	前週と比較し、2倍以上の場合
増加	➡	前週と比較し、1.2倍以上～2倍未満の場合
横ばい	➡	前週と比較し、0.8倍以上～1.2倍未満の場合
減少	↓	前週と比較し、0.5倍以上～0.8倍未満の場合
急減	↓	前週と比較し、0.5倍未満の場合

## ★地域別感染症発生状況



## ★感染症予防の基本

感染症は、咳やくしゃみの飛沫によって拡散されます。電車や職場、学校など人が集まる場所では「咳エチケット」で感染対策しましょう。

### 《咳エチケット》

- ・くしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- ・咳やくしゃみが出ている時は、できるだけマスクを着けること。
- ・手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時は、すぐに手を洗うこと。



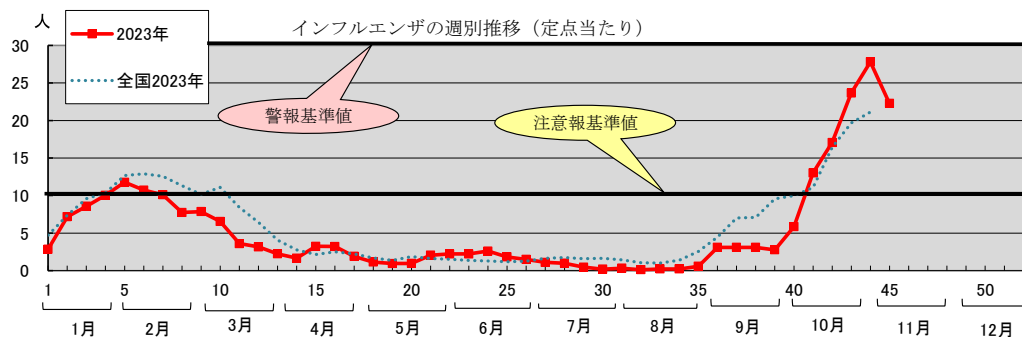
## ★県内で注目すべき感染症 ～注意点や予防方法～

### インフルエンザ

県内では、今シーズンの始まりである第36週（9月4日～10日）に定点当たり報告数が3.11（報告人数：137人）とインフルエンザの流行の目安とされている1.00を超え、流行期に入りました。

また、学校等で集団発生による休校、学年閉鎖、学級閉鎖が多数報告されているので注意してください。

全国でも、令和4年第51週（12月19日～25日）に流行期入りした後、1.00を下回ることはなく、直近の11週連続で増加しています。



### 学校等における集団発生

※学校等欠席者・感染症情報システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
休校	第45週	-	-	-	-	1	-	1
	累計	-	1	-	1	2	-	4
学年閉鎖	第45週	1	1	2	-	-	2	6
	累計	4	8	5	5	3	16	41
学級閉鎖	第45週	-	1	8	1	-	-	10
	累計	-	9	50	4	1	2	66

インフルエンザ定点医療機関での迅速診断では、インフルエンザA型が823件（99.6%）、インフルエンザB型が3件（0.4%）を占めました。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2023年第41週～第45週）ではA(H3)の検出割合が最も多く58.0%、次いでA(H1)pdm09が40.4%、Bビクトリア系統が1.0%、B系統不明が0.5%でした。A(H3)とA(H1)pdm09がともに多く検出されており、複数回感染することもあるので注意してください。

インフルエンザは、例年1月～2月頃にピークとなる疾患ですが、すでに県全域で注意報値を超えているので、インフルエンザワクチンの接種を希望される方は早目に接種しましょう。

## ●ワクチン接種を希望される方へ

- \*接種に当たっては、あらかじめ医療機関に電話等で予約をお願いします。
- \*医療機関訪問時は、マスクの適切な着用などの感染対策の徹底をお願いします。
- \*インフルエンザワクチンは重症化予防などの効果がある一方で、発病を必ず防ぐわけではなく、接種時の体調などによって副反応が生じる場合があります。医師と相談のうえ接種いただくとともに、接種後に体調に異変が生じた場合は、医療機関にご相談ください。
- \*インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンは同日接種が可能です。ただし、新型コロナワクチンは前回接種からの間隔等の接種要件があるため、必ず同日に接種できるわけではありません。

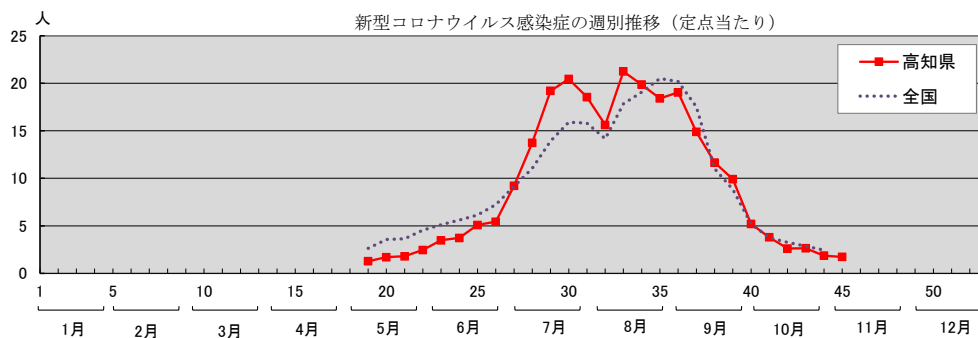
## ●学校感染症

学校保健安全法（同法施行規則第 19 条）では、出席停止期間の基準が「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては、3 日）を経過するまで」と規定される学校感染症（第 2 種）です。ただし、この出席停止期間は、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないとして規定されています。

### 新型コロナウイルス感染症

## ●定点医療機関からの報告数

週数	新規感染者数	定点当たり感染者数
第 41 週 10/9～10/15	167	3.80
第 42 週 10/16～10/22	115	2.61
第 43 週 10/23～10/29	116	2.64
第 44 週 10/30～11/5	82	1.86
第 45 週 11/6～11/12	76	1.73



- ・新型コロナウイルス感染症定点医療機関数：44
- ・新型コロナウイルス感染症の届出基準：発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状を有する者について分離・同定による病原体の検出、病原体遺伝子の検出、抗原定性検査・抗原定量検査による抗原の検出などの検査方法により新型コロナウイルス感染症と診断した場合。又は発熱または呼吸器症状（軽症の場合を含む）を呈する者であって新型コロナウイルス感染症であることが確定した者と同居している者であり医師が総合的に診断した場合。

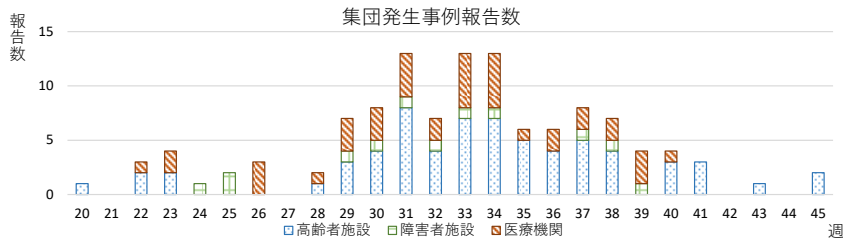
## ●重症者数・入院者数等

	重症者数 (各週末時点)	新規 入院者数	入院患者数 (各週末時点)	検査数
第 41 週 10/9～10/15	1	34	53	3,797
第 42 週 10/16～10/22	2	17	33	3,962
第 43 週 10/23～10/29	1	15	32	4,058
第 44 週 10/30～11/5	5	12	32	3,893
第 45 週 11/6～11/12	4	11	29	3,793

- ・「検査数」は、外来対応医療機関で実施した PCR 及び抗原検査数です。
- ・11月15日13時時点で集計していますので、国の公表数と異なる場合があります。
- ・掲載数は、遅れて報告されたり修正されたりする場合がありますため、暫定値となっています。

## ●集団発生事例報告数（施設種別）

	高齢者施設	障害者施設	医療機関	計
第 41 週 10/9～10/15	3	0	0	3
第 42 週 10/16～10/22	0	0	0	0
第 43 週 10/23～10/29	1	0	0	1
第 44 週 10/30～11/5	0	0	0	0
第 45 週 11/6～11/12	2	0	0	2



- ・データは報告数集計として公開するものであり、後日修正される場合があります。
- ・集団発生とは、施設等から福祉保健所等に集団発生の報告があった場合（10名以上または全利用者の半数以上発生した場合）です。

## ●予防方法

- \*手洗い・消毒は感染予防に特に有効です。
- \*密閉・密集・密接の回避と家やオフィスなどの換気を十分にしましょう。
- \*医療機関受信時や混雑した電車やバスに乗車する時など、効果的な場面でのマスク着用をお願いします。

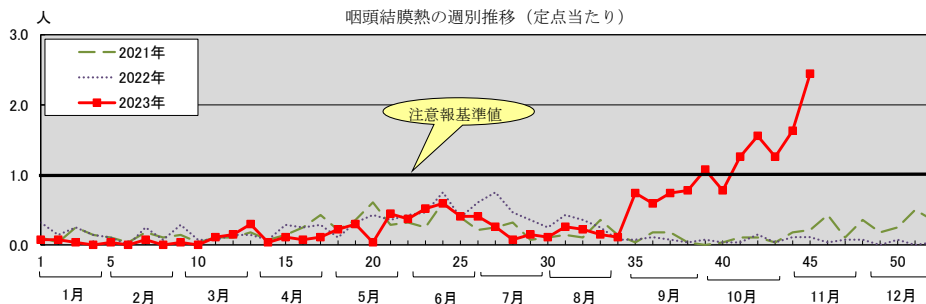
## ●学校感染症

学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、出席停止期間の基準が「発症した後5日を経過（発症日を0日目とカウント）し、かつ、症状が軽快した後1日を経過（軽快した日を0日目とカウント）するまで」と規定される学校感染症（第2種）です。

### 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とするアデノウイルスによる急性の感染症です。定点医療機関からのホット情報でも報告が多いので、注意が必要です。

潜伏期は5～7日で、症状は発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）、結膜炎が三大主症状です。プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。



## ●予防方法

- \*手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- \*タオル・コップ等の共用、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。
- \*回復後にも2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、特に、外出後、食事の前、トイレの後の手洗いを徹底しましょう。

## ●学校感染症

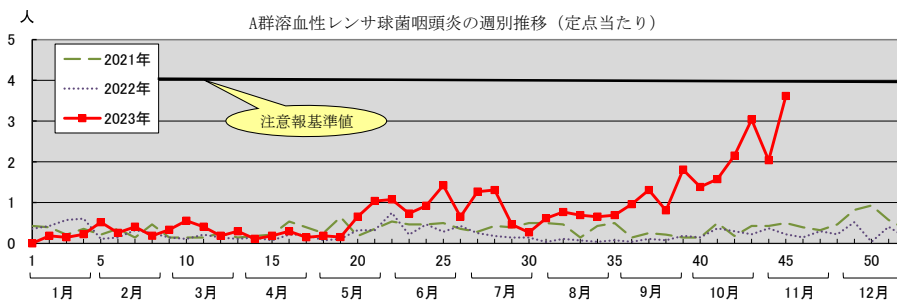
学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、出席停止期間の基準が「主要症状が消失した後2日を経過するまで」と規定される学校感染症（第2種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないとして規定されています。

## A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

この病気は A 群レンサ球菌による上気道感染症です。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」あるいは細菌が付着した手で口や鼻に触れる「接触感染」が主な感染経路になります。

典型的な症状は、2～5 日の潜伏期を経て、突然 38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌などがみられます。1 週間以内に症状は改善しますが、まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる全身症状を呈することがあります。



### ● 予防方法

\*患者との濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットを心掛けましょう。

### ● 学校感染症

学校保健安全法(同法施行規則第 19 条)では欠席者が多くなり、授業などに支障をきたしそうな場合など、「学校長が学校医と相談をして第 3 種学校感染症としての扱いをすることがあり得る病気」となっています。

## ダニの感染症(SFTS・日本紅斑熱・つつが虫病)

第 45 週は、高知市から「つつが虫病」、中央西から「日本紅斑熱」の発生届が各 1 例ありました。

「日本紅斑熱」や「SFTS (重症熱性血小板減少症候群)」は、屋外に生息する比較的大型 (吸血前で 3～4mm) の「マダニ」が媒介する感染症です。

マダニは、暖くなる春から秋にかけて活動が活発になります。この時期は、人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります。(全てのマダニが病原体を持っているわけではありません)。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にも注意が必要です。高知県では、毎年秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫 (0.2mm)」が媒介する感染症です。(マダニ同様全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません)。

### ● 予防方法

\*マダニやツツガムシに「咬まれないようにする」ことが予防策になります。

\*野山や畑などに出る時には、長袖・長ズボンで肌の露出を避けましょう。

\*ツツガムシには、虫除け剤 (有効成分：ディート) も有効です。

### ● 発熱等の症状が出た場合

\*野山に入って数日～数週間経過した後、発熱等の症状が出た場合は、医療機関を受診してください。

\*受診の際は、発症前に野山に立ち立ったこと (ダニに咬まれた可能性) を伝えてください。

### ● 参考

\*重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) に関する Q&A (厚生労働省)

[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html)

\*高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★ 全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	結 核	1	43	60 歳代 女性	中央東
4 類	つつが虫病	1	4	70 歳代 男性	高知市
	日本紅斑熱	1	16	80 歳代 女性	中央西
5 類	梅 毒	1	55	30 歳代 女性	安 芸
		1		40 歳代 女性	高知市

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
45	不明発疹症	41℃	3	男	須崎	Human herpes virus 7
45	インフルエンザ	38℃	12	男	高知市	Influenza virus A H1pdm09
45	インフルエンザ	39℃, 咳嗽, 関節痛, 倦怠感, 頭痛	13	男	須崎	Influenza virus A H3 NT
45	手足口病	発疹	10か月	女	須崎	Rhinovirus
45	上気道炎	40℃, 咳嗽, 上気道炎	3	女	高知市	Adenovirus B

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
44	新型コロナウイルス感染症	40℃, 頭痛	14	女	須崎	SARS-CoV-2(解析不能)
44	新型コロナウイルス感染症	38℃, 咳嗽	13	女	高知市	SARS-CoV-2(BA.2)
44	新型コロナウイルス感染症	38℃, 肺炎, 食欲低下	92	男	高知市	SARS-CoV-2(EG.5)
44	新型コロナウイルス感染症	39℃, 咳嗽, 頭痛, 咽頭痛, 鼻閉	11	女	須崎	SARS-CoV-2(EG.5)

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	おひさまこどもクリニック	インフルエンザ A 型 42 例 (内 2 例が 2 か月前にもインフルエンザ A 型感染)
	高知大学医学部附属病院小児科	hMPV 気管支炎 1 例 (4 歳女)
	早明浦病院小児科	インフルエンザ A 型 8 例 先週より管内保育園で下痢の患者が多発、原因ウイルス・細菌検出されず
	JA 高知病院小児科	カンピロバクター腸炎 1 例 (8 歳男) マイコプラズマ気管支炎 3 例
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 16 例 hMPV 2 例 インフルエンザ A 型 53 例
	三愛病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 2 例 (3 歳男、4 歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	アデノウイルス感染症 1 例 溶連菌感染症 8 例 手足口病 4 例 ヘルパンギーナ 3 例 インフルエンザ A 型 48 例 COVID-19 1 例
	ふないキッズクリニック	アデノウイルス咽頭炎 6 例 (0 歳男、1 歳男 2 人、2 歳女、3 歳男、4 歳女)
	細木病院小児科	hMPV 6 例 (2 歳男 2 人、3 歳男女、6 歳女、12 歳女) 溶連菌感染症 24 例

保健所	医療機関	情報
中央西	くぼたこどもクリニック	アデノウイルス感染症 3 例 COVID-19 5 例
	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 8 例 (2 歳男、4 歳女、5 歳男、5 歳女 3 人、13 歳女、14 歳女)
須崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎 (アデノウイルス陽性) 1 例 (2 歳) 溶連菌感染症増加 インフルエンザ A 型 41 例 ヘルペス性歯肉口内炎 1 例
幡多	さたけ小児科	インフルエンザ A 型 96 例

## ★注目すべき感染症

### A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

A群溶血性レンサ球菌 (*Streptococcus pyogenes*) がヒトに感染すると、その侵入部位や組織によって様々な症状を起こす。また、時に稀ながら劇症型溶血性レンサ球菌感染症の原因となることがある。本項では、主に小児の間で急性咽頭炎として発生する疾患であるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎について述べる。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の潜伏期間は2～5日であり、突然の発熱、咽頭痛、全身倦怠感によって発症し、しばしば嘔吐を伴う。通常発熱は3～5日以内に下がり、主症状は1週間以内に消失する予後良好の疾患であるが、猩紅熱や急性糸球体腎炎に発展する場合がある。治療にはペニシリン系抗菌薬が第1選択薬とされている。いずれの年齢でも起こり得るが、幼児期から学童期の小児に多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、感染症発生動向調査の小児科定点把握の5類感染症であり、全国約3,000カ所の小児科定点医療機関から毎週報告されている。新型コロナウイルス感染症流行前の2019年までの感染症発生動向調査のデータでは冬季および春から初夏にかけての2つの報告数のピークが認められていた。2020年春以降は大きな流行はなく推移していたが、2023年は第19週頃から3年ぶりの流行を認めた。

2023年は、春先までは明らかな報告数の増加はみられなかったが、第19週(2023年5月8～14日)頃から増加に転じ、第23週(2023年6月5～11日: 定点当たり報告数1.67)にピークとなった。その後は第33週(2023年8月14～20日)にかけて一度減少傾向となったが、その後再度増加傾向となり、第39週(2023年9月25日～10月1日: 定点当たり報告数1.97)から第43週(2023年10月23～29日: 定点当たり報告数3.05)にかけては、過去10年の当該週の定点当たり報告数よりも多い報告数となっている(以下、報告数等は集計時点暫定値)。なお、2023年第18週はゴールデンウィーク、第33週がお盆にあたり、届出数の解釈には注意が必要である。

2023年第1週(2023年1月2～8日)～第43週(2023年10月23～29日)の年齢別・男女別・都道府県別累積報告数の特徴を以下に示す。年齢別では、5歳(22,001例、定点当たり累積報告数7.01)をピークに、3歳(14,446例、定点当たり累積報告数4.60)から7歳(15,309例、定点当たり累積報告数4.88)において報告数が多かった(表1)。男女別では、男性が82,324例(54.5%)、女性が68,864例(45.5%)であり、男性に多かった。都道府県別では、福岡県(定点当たり累積報告数114.78)、鳥取県(定点当たり累積報告数114.53)、長崎県(定点当たり累積報告数76.64)の順に報告数が多かった(表2)。なお、本疾患の発生動向調査は小児科定点医療機関のみからの報告であることから、成人における本疾患の動向の評価は困難である。

表1.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の年齢群別累積報告数(2023年第1～43週)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上	合計
2023年	928	5,242	8,764	14,446	19,449	22,001	19,494	15,309	11,904	8,508	16,714	1,916	6,513	151,188

表2.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の都道府県別定点当たり累積報告数(2023年第1～43週)

	福岡県	鳥取県	長崎県	富山県	山口県	大阪府	沖縄県	奈良県	京都府	北海道	全国
2023年	114.78	114.53	76.64	75.31	69.79	69.14	68.77	64.91	63.03	62.75	48.15

※上位10都道府県抜粋

本疾患は通常、患者との接触を介して伝播するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学校、保育施設などでの集団感染が多い。予防としては、患者との濃厚接触を避けることが重要であるため、職員を含め体調不良者は出勤・登園を控える必要がある。また、手洗いや手指消毒の励行や、マスクを用いた咳エチケット(咳やくしゃみを発する者が周囲への感染予防のためにマスクを着用すること)も効果が期待できる。

(国立感染症研究所IDWR2023年第43号より)

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1 高知県保健衛生総合庁舎2階

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

※この情報に記載のデータは2023年11月13日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合は、週報上にて訂正させていただきます。



# ★高知県感染症情報 疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(55定点医療機関)

第45週 令和5年11月6日(月)～令和5年11月12日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名 (定点数)	保健所 疾病名	高知県						計	前週	全国(44週)	高知県(45週末累計) RS/1/2～RS/11/12	全国(44週末累計) RS/1/2～RS/11/5
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多					
インフルエンザ COVID-19(4)	インフルエンザ	77	156	335	109	67	236	980 ( 22.27 )	1,223 ( 27.80 )	104,359 ( 21.13 )	10,849 ( 246.57 )	1,310,528 ( 265.72 )
	新型コロナウイルス感染症	2	18	17	17	13	9	76 ( 1.73 )	82 ( 1.86 )	12,065 ( 2.44 )	11,201 ( 254.57 )	1,238,204 ( 251.06 )
小児科 (26)	咽頭結核熱		29	30		5	2	66 ( 2.54 )	44 ( 1.69 )	7,718 ( 2.45 )	505 ( 19.42 )	94,085 ( 29.96 )
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	57	4	14	14	94 ( 3.62 )	53 ( 2.04 )	9,568 ( 3.04 )	959 ( 36.88 )	160,778 ( 51.20 )
	感染性胃腸炎	7	10	21		5	14	57 ( 2.19 )	43 ( 1.65 )	9,823 ( 3.12 )	3,664 ( 140.92 )	633,201 ( 201.66 )
	水痘	1		1	1			3 ( 0.12 )	2 ( 0.08 )	320 ( 0.10 )	145 ( 5.58 )	12,561 ( 4.00 )
	手足口病	2		9		3		14 ( 0.54 )	12 ( 0.46 )	2,298 ( 0.73 )	759 ( 29.19 )	86,928 ( 27.68 )
	伝染性紅斑							( )	( )	30 ( 0.01 )	21 ( 0.81 )	1,895 ( 0.60 )
	突発性発疹			5				5 ( 0.19 )	5 ( 0.19 )	664 ( 0.21 )	307 ( 11.81 )	35,461 ( 11.29 )
	ヘルパンギーナ		4	6				10 ( 0.38 )	9 ( 0.35 )	367 ( 0.12 )	1,151 ( 44.27 )	192,902 ( 61.43 )
	流行性耳下腺炎							( )	( )	106 ( 0.03 )	20 ( 0.77 )	6,090 ( 1.94 )
	RSウイルス感染症					1		1 ( 0.04 )	( )	193 ( 0.06 )	1,275 ( 49.04 )	144,075 ( 45.88 )
眼科(3)	急性出血性結膜炎							( )	( )	8 ( 0.01 )	( )	359 ( 0.52 )
	流行性角結膜炎			2				2 ( 0.67 )	3 ( 1.00 )	564 ( 0.81 )	14 ( 4.67 )	12,760 ( 18.39 )
基幹 (8)	細菌性髄膜炎							( )	1 ( 0.13 )	11 ( 0.02 )	5 ( 0.63 )	344 ( 0.72 )
	無菌性髄膜炎							( )	( )	9 ( 0.02 )	7 ( 0.88 )	591 ( 1.23 )
	マイコプラズマ肺炎							( )	1 ( 0.13 )	28 ( 0.06 )	23 ( 2.88 )	770 ( 1.61 )
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							( )	( )	1 ( )	( )	21 ( 0.04 )
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							( )	( )	( )	7 ( 0.88 )	131 ( 0.27 )
計 (小児科定点当たり人数)	89 ( 24.75 )	222 ( 25.40 )	483 ( 39.47 )	131 ( 34.00 )	108 ( 34.00 )	275 ( 36.63 )	1,308 ( 33.62 )			148,132	30,912 ( 839.83 )	3,931,684
前週 (小児科定点当たり人数)	49 ( 14.50 )	241 ( 25.44 )	572 ( 43.87 )	108 ( 28.50 )	73 ( 22.00 )	435 ( 56.86 )		1,478 ( 36.12 )				

注 ( ) は定点当たり人数。

高知県感染症情報(55定点医療機関) 定点当たり人数

第45週

定点名 (定点数)	保健所 疾病名	高知県						計	前週	全国(44週)	高知県(45週末累計) RS/1/2～RS/11/12	全国(44週末累計) RS/1/2～RS/11/5
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多					
インフルエンザ COVID-19(4)	インフルエンザ	19.25	15.60	23.93	27.25	16.75	29.50	22.27	27.80	21.13	246.57	265.72
	新型コロナウイルス感染症	0.50	1.80	1.21	4.25	3.25	1.13	1.73	1.86	2.44	254.57	251.06
小児科 (26)	咽頭結核熱		4.83	3.33		2.50	0.40	2.54	1.69	2.45	19.42	29.96
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.83	6.33	2.00	7.00	2.80	3.62	2.04	3.04	36.88	51.20
	感染性胃腸炎	3.50	1.67	2.33		2.50	2.80	2.19	1.65	3.12	140.92	201.66
	水痘	0.50		0.11	0.50			0.12	0.08	0.10	5.58	4.00
	手足口病	1.00		1.00		1.50		0.54	0.46	0.73	29.19	27.68
	伝染性紅斑							( )	( )	0.01	0.81	0.60
	突発性発疹			0.56				0.19	0.19	0.21	11.81	11.29
	ヘルパンギーナ		0.67	0.67				0.38	0.35	0.12	44.27	61.43
	流行性耳下腺炎							( )	( )	0.03	0.77	1.94
	RSウイルス感染症					0.50		0.04	( )	0.06	49.04	45.88
眼科(3)	急性出血性結膜炎							( )	( )	0.01	( )	0.52
	流行性角結膜炎			2.00				0.67	1.00	0.81	4.67	18.39
基幹 (8)	細菌性髄膜炎							( )	0.13	0.02	0.63	0.72
	無菌性髄膜炎							( )	( )	0.02	0.88	1.23
	マイコプラズマ肺炎							( )	0.13	0.06	2.88	1.61
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							( )	( )	( )	( )	0.04
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							( )	( )	( )	0.88	0.27
計 (小児科定点当たり人数)	24.75	25.40	39.47	34.00	34.00	36.63	33.62				839.83	
前週 (小児科定点当たり人数)	14.50	25.44	43.87	28.50	22.00	56.86		36.12				



# 病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ/COVID-19定点・小児科定点・眼科定点)

## 高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2023年 第45週)

